

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 倉吉西高等学校

重点項目	地域連携	提出日	令和5年4月21日
------	------	-----	-----------

1 学校目標		
校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志（使命感）を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人財を育成する。		
2 重点項目に係る目標・成果		
	目標	成果
	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークなどを通して地元自治体や地域の協力者と協働した課題解決策を模索し、提言できる力を育成する。 ふるさとキャリア教育を推進することで、将来の地域を支える人財育成に繋げる。 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> フィールドワークやボランティア活動、地元小中学校との連携事業に参加する生徒が8割以上。 地元自治体等に対する提言を行う生徒が10グループ以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外活動や社会人講師活用事業を生かした外部との連携が進み、社会や地域についての理解が深まった。 日本女性会議など、校外でのイベントやシンポジウム等に参加する生徒が増加し、校外でのイベントなどを自ら探し積極的に参加していく姿勢の生徒が増加した。 <p><数値結果></p> <p>○フィールドワークやボランティア活動、地元小中学校との連携事業に参加する生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> フィールドワークは1年生、2年生 <u>10割</u> ボランティア活動は延べ114名 全生徒の<u>3割</u> 地元小中学校との連携事業 1年生の<u>2割</u> <p>計 参加生徒10割</p> <p>○地元自治体等に対する提言を行う生徒</p> <p>10月 日本女性会議2022in倉吉</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校生徒が参加 2年生チャレンジグループ6班中4班が発表 <p>10月 高校生議会 1班(人)参加</p> <p>12月 中部ハイスクールフォーラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生チャレンジグループ6班中1班が発表 <p>計6グループ</p>
3 実施事業		
【高等学校課事業】		
■外部人材活用事業		
<ul style="list-style-type: none"> 「社会人講師活用事業」 <p>チャレンジグループ活動 「地方の方から学ぶ」</p> <p>12月1日(木) 6,7限 S1の119名 6グループに分かれて実施</p>		
湯梨浜町役場町民課	(有)タケオフェンス	中部教育局
厚生病院	(有)井手添建築設計事務所	水谷いちご園

■ふるさとキャリア教育充実事業（キャリア塾）

・「教えて先輩」

チャレンジグループ活動の1つのグループが地元企業を訪問し、地元で働くことの意義や地域貢献について学ぶ。

→コロナウイルス感染症対策により実施できなかった。

【独自事業】

■地域連携・貢献活動推進事業

・「活動成果発表事業」

地域活性化に繋がる各自の成果発表の機会として実施。地元大学等の教授を指導助言者として招聘。

令和4年5月26日(木) 講師 鳥取大学特任教授 尾室 真郷 様

・「地域参画事業」

地元自治体や企業等へ研究成果を発表

1 令和4年10月28日(金) 「日本女性会議2022 in鳥取くらし」

全校生徒参加し、2年生徒チャレンジグループ6グループ中4グループが発表した。

発表者及びその他3名は、日程中ボランティアとしても参加した。

2 令和4年10月31日(月) 「高校生議会」 1グループ1名参加

3 令和4年12月18日(日) 「中部ハイスクールフォーラム」 1グループ2名参加

■「未来の教師」育成プロジェクト事業

・地元小中学校と連携した、次代を担う教員志望者を育成。

1 令和4年10月14日(金) 倉吉西中学校「自主学習DAY」 学習支援 8名参加

令和5年 2月22日(水) 倉吉西中学校「自主学習DAY」 学習支援 11名参加

2 令和5年 7月21日(木) 鳥取大学オープンキャンパス参加 16名

令和4年 8月 5日(金) 鳥取大学とのオンライン交流 5名

令和4年10月12日(水) 島根大学教育学部訪問 12名

4 総合所見（成果・評価）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、フィールドワーク等計画どおりに実施できなかった事業もあるが、感染対策を図りながら地元自治体や地元大学の協力を仰ぎ、講演会や施設・企業訪問等の機会を捉え、生徒が地域や社会への理解を深め、視野を広げることができた。
- ・生徒が探究結果に基づいて提言する場を確保できず、10グループの発表目標には届かなかったものの、全校生徒が他校の生徒や地域の方の提言や考えを聞くことで新たな視点や問題意識を持つことができた。
- ・生徒の発表の場を校内に留まることなく、全生徒を日本女性会議、高校生議会など校外でのイベントやシンポジウムに参加させることができた。このことにより、生徒の教育活動が地域の課題を共有する形で探究を深め、探究内容の発表や提言を行い、生徒が地域とともに学ぶ基盤ができてきた。
- ・次年度以降も地域の協力者と協働した取組を推進し、地元自治体とも連携した取組を行っていきたい。

※枚数任意